

令和6年度 学校評価自己評価(前期)

鬼北町立日吉小学校

【評価基準】 A 80%以上達成 B 70%以上達成 C 60%以上達成 D 60%未満

重点目標		評価項目	評価	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇) (◆)
確かな学力		①しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	A	○効果的にペア学習やグループ学習を取り入れ、少人数ながらも自分の考えを伝え合う場を設けるようにしている。 ●自分の考えを伝えることが苦手な児童が見られる。 ●アンケート結果では、教員と児童・保護者の評価に差がある。	◇学習時だけでなく発表の場を設けるようにしているが、進んで自分の考えを発言しようとする児童は少ない。 ◆日頃の授業において一斉指導の場面を減らし、児童同士の発言が増やせるような授業改善に努める。
		②基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	B	○放課後子ども教室への参加で、宿題をする時間を確保できているものの、家庭での学習の時間が確保されているかは個人差がある。 ●毎日、自主学習に取り組むようにしているが、内容には個人差がある。	◆家庭で決まった時刻に、決まった時間(学年×10分+10分)、決まった場所で学習するよう繰り返し啓発していく。 ◆計算プリントや漢字スキルを活用して、学年相応の基礎・基本の定着を図るためにきめ細かい指導を充実させていく。 ◆タブレット端末を活用しながら、定着度や成果を評価できるようにし、児童の意欲につなげる。
		③読書に親しんでいる。	B	○本屋へ行こうプロジェクト、ファミリー読書や読み聞かせの実施など様々な取組を行った。また、タブレット端末を活用した読書記録も実施した。 ○昨年度に比べ、児童や保護者の評価が上がってきている。 ●児童や保護者の評価と、教職員の評価との差が大きい。	◇今後も様々な取組を行い、読書週間の定着を図りたい。 ◆さまざまなジャンルの本に出会える機会をつくり、読書へ向かう意欲を向上させる。 ◆家庭学習に読書を取り入れ、日々本に触れるようにする。
評価委員所見	学校関係者	○自分の考えは持っていて、それを発信するのは難しい。また、少人数であるため、いろいろな発想や思いの展開がされにくい。他校との交流授業を取り入れ、他者のいろいろな考えや思いを知ることによって学びを広げてほしい。 ○家庭学習の時間の確保、定着は望ましいあるべき姿だとは思うが、子ども教室で宿題をすませている子にとっては、難しい面もある。基礎・基本を大切に、自主学習に進んで取り組めるよう工夫を希望する。 ○家庭学習というのは環境次第で身に付くものだと思う。環境が整っていれば、「しなさい」と言われなくてもするものである。		学校の対応策	○授業だけでなく、学校教育全般を通して、自分の考えを発信する機会を多く設定できるよう工夫していく。また、他校との交流授業を取り入れながら、多様な考えに触れられる機会を持てるようにしていく。 ○まずは、基礎・基本の定着に力を入れ、効果的な家庭学習となるよう工夫していく。中学年以上については、「計画→テスト→分析→練習」の学習の要素を取り入れた自主学習に取り組めるよう、内容の充実を図っていく。 ○家庭との連携を図りながら、家庭での学習や読書が充実するような工夫を行う。
豊かな心		④地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を実践している。	A	○郷土学や、総合的な学習の時間等において、ねらいを明確にして積極的な交流活動や自然体験活動が実践できている。 ○児童、保護者、教員ともに高い評価を得ている。	◇活動内容も充実している。児童の主体的な関わりや行動力等更なる成長を促す。 ◇地域からの情報を生かしながら、地域を巻き込んだ学習ができている。小規模校の良さを生かした学習活動を展開していく。
		⑤進んで挨拶や返事ができる。	A	○昨年度に比べると朝の挨拶の声は大きくなってきている。 ●児童の自己評価は高いが、来客者への挨拶、先取り挨拶など、環境が変わると、その場にあった挨拶はできていない。また、相手を見て挨拶するのも苦手である。 ●問い掛けへの返事については課題である。	◆先取り挨拶を奨励する。 ◆いつでも、どこでも、誰にでも、元気で気持ちの良い挨拶ができるよう、教師自らが進んで児童の模範となれるよう意識し、実践する。 ◆返事が返ってくるまで、何度も問い掛けたり、挨拶ができていない場面を取り上げ、指導していく。
		⑥きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	A	○全校給食が実施できたことで、きずな班での関わりが増えた。思いやりや協力し合う心が育ってきている。	◇きずな班での活動では、高学年が低学年に優しく関わる姿が見られた。今後も、高学年がリーダーシップを発揮できるような活動を行っていく。 ◆きずな班での活動を積極的に企画し、実践していく。
評価委員所見	学校関係者	○できている子もいれば、そうでない子もいる。やらされている感が見受けられる。 ○挨拶は、手を緩めると低調になったり、元に戻ったりするので、常にその大切さ、重要性を話し掛けて、明るい生活が送れるようにしてほしい。 ○小規模校ならではの教育がなされていると思う。挨拶はコミュニケーションの基本である。 ○学校でも家庭でも気持ちの良い返事ができる児童になってほしい。		学校の対応策	○挨拶の重要性を子供に意識させながら、進んで元気な挨拶や返事ができるよう声掛けを行っていく。また、教師自らが手本となるよう意識する。 ○日吉ならではの、小中一貫教育を核とし、児童生徒間の交流を大切にした学校教育を推進していく。

重点目標		評価項目	評定	評価資料の分析	考察及び改善方法 (◇)(◆)
健やかな体		⑦「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化が図られている。	A	○毎月の元気アップ習慣により、生活習慣の見直しを、養護教諭・栄養教諭、学級担任が連携し、積極的に行った。 ○給食時には、食事の大切さについて児童に知らせることができた。 ●家庭により差があるが、不規則な生活や朝ご飯の欠食が見られる児童がいる。就寝時刻の遅い児童がいる。	◇保健だより、個人懇談などを通して、保護者への啓発を行った。 ◆今後も元気アップ調査の結果を基に学級担任と養護教諭が連携し、保護者への啓発と児童への指導を続けたい。
		⑧楽しく運動を続けている。	A	○体育科の授業や放課後の水泳練習では、進んで体を動かそうとする児童が育ってきている。 ●暑さも影響するが、外で体を動かせるようにしたい。	◆えひめ子どもスポーツITスタジアム等を活用しながら、学級で進んで体を動かす取組を行っていく。 ◆外で遊ぶことを億劫に感じる児童が数名いる。外遊びを奨励したい。
		⑨元気で学校に通学し、明るく学校生活を送っている。	A	○感染症の予防についての徹底を図り、流行を防ぐことができた。 ●1学期71日間中、全校欠席0の日が37日間であった。	◇ほとんどの児童が元気に登校し、学校生活を楽しんでいる。 ◆2学期も全校児童が元気に登校し、学習や運動、行事に取り組めるよう、家庭との連携を図っていく。
評価委員所見	学校関係者	○三食のうち特に朝食は体も頭も覚醒するため大切だと思う。親子で正しい生活習慣について話し合うなど、連携した「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣化に努めてもらいたい。 ○保護者が朝食を摂らない家庭であっても、子供には何らかの形で朝食を摂らせて登校させてほしい。 ○児童が競争心や団結力、頑張る力などが身に付くよう、今後もITスタジアム等を活用しながら取り組んでももらいたい。		学校の対応策	○保護者に、生活習慣のチェックを行えるような取組を行い、朝食の重要性を伝えていく。また、児童自身も意識が高められるよう、栄養教諭との連携を図りながら指導を続けていく。 ○えひめ子どもスポーツITスタジアムへの参加を積極的に行い、目標を持って運動に取り組めるようにし、運動の日常化を図っていく。
学校・家庭・地域の連携		⑩ホームページ、学級通信・学校だより等で、学校の取組を発信している。	A	○ホームページは、ほぼ毎日更新をすることができた。また、ケーブルテレビを積極的に活用して、学校行事や児童の活動の様子を発信することができた。 ○保健だより、給食だより、学級通信等それぞれの立場から情報発信を行った。 ○学校行事の案内・アンケートのデジタル化を推進できた。	◇通信の発行やホームページの更新、ケーブルテレビでの放映など、メディアを有効活用した情報発信ができた。 ◆今後も、教育活動の様子をメディアによって積極的に公開するとともに、課題解決に向けた啓発など内容の充実を図る。
		⑪人・こと・ものとのかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	○郷土学・総合的な学習の時間について、各種団体との連携・協力や地域コーディネーターの支援により充実した学習となった。年間計画通りの学習ができています。 ○学校運営協議会委員を招いての授業公開で、学校の様子を参観していただいた。	◇今後も、地域からの情報を積極的に取り入れ、日吉らしい教育活動を実施していく。 ◆防災教育を推進していく中で、地域との関わりを大切にしながらふるさとを大切にしていこうとする心情を育てていく。
		⑫保護者・地域住民・教職員と連携して教育活動を行っている。	A	○奉仕作業、古紙回収など、多くの保護者・地域の方に協力していただいた。 ○郷土学や総合的な学習の時間など、多方面で協力していただいている。 ○参観日や役員会、奉仕作業等への参加率が高い。 ○地域行事への参加も行った。	◇日吉地区見守り隊の方や放課後子ども教室のサポーターの方、読み聞かせボランティアの方など、多くの方々に協力していただいている。 ◆2学期も、全校児童が元気に楽しく、安全に学校生活が送れるように連携を図りながら、学校教育を進めていく。
評価委員所見	学校関係者	○学校と保護者、地域が一体となった取組の様子がメディアに流れることで、良好な関係が保たれていると確信できる。 ○ケーブルテレビ等で児童や学校の様子など公開され、児童たちの元気な成長が見られうれしく思う。地域の方もよく視聴されるので、情報をどんどん流して取材対応してもらいたい。 ○学校・家庭・地域との連携は十分できていると感じる。		学校の対応策	○今後も、学校の様子を積極的に情報発信することで、保護者や地域からの信頼を得られるように努める。 ○防災教育の推進については、地域を巻き込みながら、地域住民の防災意識も高められるような学校の取組を検討していく。

